

# 夕刊 警城時報

行發日 一  
編輯兼發行 岡田弘成  
印刷所 警城時報社  
發行所 警城時報社  
一部金貳圓 一月金十圓  
廣告料 一行十四字 五十日  
日刊(日曜紙) 翌日休刊

## 平警防團の陣容 防空訓練に張り切る

平警防團では警防後援會から一が完備したので今回の三次防空頭宛の馬を生産、産報國に邁進することになった。訓練には新陣容を總動員して再進することになった。一萬二千回の新銃自動車ポンプ訓練は新陣容を總動員して再進することになった。一萬二千回の新銃自動車ポンプ訓練は新陣容を總動員して再進することになった。一萬二千回の新銃自動車ポンプ訓練は新陣容を總動員して再進することになった。

## けふから防空訓練 緊張裡に展開さる

防空の今年第三次訓練は隣組の強化などでハチ切れさうな市郡下一体の緊張裡に急よ一日から展開されるが、左記事項は全市民の常識として知って置くべきであり、各町内共印刷物の配付その他によりその程度の手配に開誤つかぬ様々周知方を手配し萬遺漏なき態勢に出ている。○警備 擬々通信筒(赤)五キ 五十キ 爆彈二十發

## 石城産馬畜産組合 産馬報國に邁進

石城産馬畜産組合では石城郡が河支部から到着、永戸、入遠野農林省から小格馬馬産指定三版に配置したが、これで國有され今回新たに國有種牡馬山種牡馬十一頭となつたわけで、號外二頭が貸下げとなり一日白組合では向ふ五ヶ年間一ヶ年千

## 二十尺の大鯨 小名濱で捕獲

三十日朝小名濱町定西海岸に二尺のゴンドウ鯨が乗り上げて後六時八分常磐線平驛發上り九時の列車に接撃することにた。因に小名濱ではこれが不便を免れるべく水戸運輸部に町議等が陳情を行つたのも既報の通りである。

## 神宮選手決る

明治神宮國民体育大會出場の本縣代表選手は別項青年團縣下大會終了後直ちに陸衛會を開いて次の如く決定した

## 石炭の闇解消か 常磐石炭會社開業

警城、入山、古河の三大炭礦をに互に行はれたが、藤田、鈴木を除く常磐中炭礦九十餘から生産される石炭販賣統制機關として設立された常磐石炭株式會社が準備既になり東京市麹町區九段二丁目三、國際文化會館に本社を置き支所を平驛前に設け、一日から事業を開始するに決した。この販賣統制會社の創立によつて従來の闇取引の如きは全く防止され、従つて販賣費も低下し生産販賣雙方共に利益を得られるわけである

## 小名濱の 運河開鑿

小名濱町の小名川運河開鑿計畫は、具体化し今月一杯で掘削作業二十五戸が臨場前掘立地通りに移轉着工することになった

## 中澤警部補着任 泉驛に 準急停車

平警司法主任中澤警部補は三日十日着任の挨拶をなした

## 十月以後の 蔬菜價格

既報、平地方に於ける十月から明年三月迄六ヶ月間にわたる果物及び野菜類の小賣價最高最低は、二十六日平警會議室に平警役員をはじめ平果菜市場、平、飯野、好間、夏井、草野、神谷内各農會役員並に生産者代表が協議の結果左の如く決定された(單位は百匁)

## 老婆溢死 北支から

北支から 北浦松太郎君 拜啓 前日は御懇篤なる御慰問状を拜見し旺盛なる御後援の熱意の程も鮮々と何はれ大いに意を強く致しました。身に余る有難き御言葉、此の上は熱き御後の後援を肝に銘じて忘れず一死報國東洋平和建設の爲に大陸に花を散らす覚悟です。熱烈なる御後の意氣の籠つた慰問状、これさへ肌身はなすず付いておれば敵の弾丸を避けて通る事では分が出来るのだ、だからさうなると、自分が出さへすればよいといふことに結論はなされる。それは自分が出なければならぬといふ意見もたつていてゐると、兎に角今のやつをぶち壊して、はい、はい、自分達さへ出られ、はい、はい、と語つてゐるが、これは第二段階に入つた新体制内部の問題を告白してゐるやうなものである。

## 新体制運動と夾雑物

團の相手方は内になくちや造り場がないといふ主張も民政黨の解黨を機として複雑とならざるを得ぬこととなりて行つてゐる。それは言ふまでもなく、基本的なそれぞれの觀念はどうであらうと、民政黨解黨を最後として、殆んど全部が全部新体制参加案を完全に整備するに至つたといふのは、具体的には新体制参加案を完全に整備するに即ち夾雑物多し新体制内部の

## 御誂と既製品

分が出来るのだ、だからさうなると、自分が出さへすればよいといふことに結論はなされる。それは自分が出なければならぬといふ意見もたつていてゐると、兎に角今のやつをぶち壊して、はい、はい、自分達さへ出られ、はい、はい、と語つてゐるが、これは第二段階に入つた新体制内部の問題を告白してゐるやうなものである。

## 有馬伯は「新しく共鳴して」

有馬伯は「新しく共鳴して」 社大や第一職員俱樂部系も革新を呼ぶことに於ては、何等相違はないのであるから

## 有馬伯は「新しく共鳴して」

有馬伯は「新しく共鳴して」 社大や第一職員俱樂部系も革新を呼ぶことに於ては、何等相違はないのであるから

## 有馬伯は「新しく共鳴して」

有馬伯は「新しく共鳴して」 社大や第一職員俱樂部系も革新を呼ぶことに於ては、何等相違はないのであるから

## 有馬伯は「新しく共鳴して」

有馬伯は「新しく共鳴して」 社大や第一職員俱樂部系も革新を呼ぶことに於ては、何等相違はないのであるから

## 有馬伯は「新しく共鳴して」

有馬伯は「新しく共鳴して」 社大や第一職員俱樂部系も革新を呼ぶことに於ては、何等相違はないのであるから

## 有馬伯は「新しく共鳴して」

有馬伯は「新しく共鳴して」 社大や第一職員俱樂部系も革新を呼ぶことに於ては、何等相違はないのであるから

